





KANSAS CITY SUITE COUNT BASIE.

The Music of Benny Carter

RDED LIVE AT



菅原正二(ジャズ喫茶「ベイシー」店主)監修



## Count Basie Rulette Collection

ビッグ・バンド・ジャズの帝王:カウント・ベイシーのビークとも 言える1957年~62年=ルーレット時代の名盤を最新リマ スタリングで一気にリリース!

- 海外から新たに取り寄せたオリジナル・マスターを元にした、 菅原氏の監修による最新リマスタリング
- ベイシーのすべてを知り尽くした菅原氏ならではの作品ごとの 書き下ろしショートコラム掲載
- 初CD化作品多数
- 2015年9月2日発売(全24タイトル)
- 各1,400円+税/2枚組:2,400円+税
- オリジナル英文ライナーの対訳/解説/歌詞付(一部作品除く)













## 粋にスウィングするジャズの真髄 ~ルーレットのカウント・ベイシーは最高だ!~

菅原正二(ジャズ喫茶「ベイシー」店主)

この度、ワーナーミュージックから「ルーレット・レーベル時代のカウント・ベイシー」が一挙にまとめて発売さ れることになった。このような試みはまことに珍しいことであり、快挙といっていいだろう。

今さら申すまでもなく、1937年に正式に結成されたカウント・ベイシー・オーケストラは「デッカ」「クレフ(~ ノーグラン、ヴァーヴ)」レーベル等に数々の名盤を遺したのち、1957年から1962年までの5年間を「ルー レット・レーベル」と専属契約を結んでいる。そして、この時代のベイシー・バンドのサウンドが少し変った。モダ ンになったとか新鮮になったとか人はいう。時代のせいもあろう。ベイシー・バンドに対する世間の人気もここ でふたたびグッと上がっている。

つまり、このときバンドは第何期目かの"黄金時代"を築き上げた。それはそうだろう。

まずメンバーが物凄い。トランペット・セクションには、サド・ジョーンズ、ジョー・ニューマン、スヌーキー・ヤ ング、ウェンデル・カリー。トロンボーン・セクションにはヘンリー・コーカー、アル・グレイ、ベニー・バウエル。 サックス・セクションにはマーシャル・ロイヤル、フランク・ウェス、フランク・フォスター、エディ"ロックジョウ"デ イヴィス、チャーリー・フォークス。そしてリズム・セクションには、カウント・ベイシーのピアノ、フレディ・グリー ンのギター、エディ・ジョーンズのベース、ソニー・ベインのドラムス、と、書き上げているだけで身震いがする オールスター・ビッグ・バンドだ。

つまり、猛烈にスウィングしながら、そこにモダンなソロがちりばめられていて、いつ聴いても新鮮なのだ。

テナーサックスにレスター・ヤングが居たころから元々ベイシー・バンドはモダン・ジャズの温床ではあったの だが、ルーレットに移籍してからはソロを短くして、曲全体を簡潔、スマートに仕上げるようになった。これは当 時、作・編曲者の主軸となったニール・ヘフティの力量に負うところが大であったのはいうまでもなかろう。ルー



レット移籍第一作目の『BASIE』(通称"アトミック・ベイシー")は全曲ニール・ヘフティの書き下ろしで、これら は以後不滅のベイシー・ナンバーとして演奏され続けていくことになった。

それに加え、サド・ジョーンズやフランク・フォスターの作品もベイシーは好んで取り上げてきたし、昔からの アーニー・ウィルキンスや、新しいクインシー・ジョーンズといったシャレたナンバーも気に入って自分のナン バーとしているところがカウント・ベイシーという人の人柄を感じさせる。

カウント・ベイシー楽団には自由があった。たとえばフランク・ウェスがベイシーに向かって「フルートを吹い ていいか? といったら「やってみろ」といい、以後それが定番となった話は有名だ。

浮き沈みが多いビッグ・バンド界で、デューク・エリントン楽団はともかくとして、カウント・ベイシー・オーケス トラが驚異的な長寿を達成したのには訳がある。それは時代によって少しずつの変化を見せながらも、一貫し て変らず、常に「スウィング」することを忘れなかったからだ。

時代が変り、人々が変っても、スウィングさえしていればカウント・ベイシーはステージの上でいつもニンマリ としていた。そのスピリッツが時を超えた。

われわれはいつの時代のカウント・ベイシー楽団の演奏もレコードで聴くことができる。

そんななかで今「ルーレット」のカウント・ベイシーの演奏を誰でもまとめて聴けるチャンスがこの企画で到 来した。

そこには忘れかけていたこと、あるいは新しい発見が待っているかもしれない。

粋にスウィングするジャズの真髄を、ルーレットのカウント・ベイシー楽団が高いレベルであらためて教えて くれるだろう。

#### ■ 菅原正二(すがわらしょうじ)

1942年岩手県生まれ。早稲田大学在学 中、ハイソサエティー・オーケストラでパン ド・マスター、ドラマーとして活躍、TBSラ ジオ主催の「全国大学対抗バンド合戦」で 3年連続全国優勝。1967年には、ビッグ・ バンドとして日本初の米国ツアーを敢行し た。「チャーリー石黒と東京パンチョス」の ドラマーを務めたのち、1970年、郷里の 一関に戻り、ジャズ喫茶「ベイシー」を開 店。ジャズ・オーディオに独自のスタイルを 確立し、幾多のジャズ・ジャイアンツやさま ざまなジャンルの人物が世界中から「ペイ シー | に集う。「スウィフティー | というニッ クネームは、親交の深かった故カウント・ベ イシーに命名されたもの。書籍、新聞、雑誌 などへの寄稿が多数あり、著書に「ジャズ喫 茶「ベイシー」の選択~ぼくとジムランの酒 とバラの日々」(駒草出版)、『聴く鏡』『聴く Photo: Koji Onodera 鏡II (ステレオサウンド社)がある。



▲ 海外から届いたマスター音源をマスタリング・スタジオで確認する菅原氏

第2期黄金時代を迎えたベイシー楽団による移籍第1弾。気鋭のメ ンバーによる斬新なソロとニール・ヘフティの編曲で強烈にスウィ ング。ビッグ・バンド史上、燦然と輝く一大傑作。



□「アトミック・ベイシー」

#### Basie

エレッド・バンクから来た男/2デュエット/3ア フター・サバー/4フライト・オブ・ザ・フー・バー ズ/5ダブル・オー/6テディ・ザ・トード/フワー リー・バード/8ミッドナイト・ブルー/9スプラン キー/10ファンテイル/11リル・ダーリン

WPCR-16582 MONO

カウント・ベイシー(p)、ウェンデル・カリー、スヌーキー・ヤング、サド・ジョーンズ、ジョー クンプ・ファン(1p)、ヘンリー・コーカー、アルーグレイ、ベニー・バウエル (tb)、マーシャルローイャル(cl. as)、フランク・ウェス (as. ts. fl)、フランク・フォスター (ts. arr)、エディ 「ロッグショウ ディヴィス (ts)、チャーリー・フォークス (bs)、フレディ・グリーン (g)、エディ・ショーンズ (b)、ソニー・ベイン (ds)、エール・ヘフティ (arr)、ジミー・マンデイ

【録音】 11回日・日日:1957年10月21日 ニューヨーク/11回回:1957年10月22日

名手ニール・ヘフティのスコアに彩られた、モダン・ベイシーの名 作。ユーモラスなジャケットと、〈キュート〉の名演でも知られる人気 盤が待望の復刻!



| 「キュート ベイシー・プレイズ・ヘフティ

#### Basie Plays Hefti

1ハズ・エニワン・ヒア・シーン・ベイシー/2キュー ト/3ペンシヴ・ミス/4スルー・フット/5イッツ・ オーフリー・ナイス・トゥ・ビー・ウィズ・ユー/6ス クート/ファ・リトル・テンボ、ブリーズ/ミレイト・ デイト/ョカウント・ダウン/回パグ・ア・ボーンズ /11ボニー・テイル

WPCR-16583 STEREO

ニューマン(fp)、ペンリー・コーカー、アル・グレイ、ペニー・パウェル(tb)、フランク ウェス(as, fl)、マーシャル・ロイヤル(as)、ピリー・ミッチェル(ts)、フランク・フォスター (ts)、チャーリー・フォークス(bs)、フレディ・グリーン(g)、エディ・ジョーンズ(b)、、 ニー・ペイン(ds)、ニール・ヘフティ(arr)

クインシー・ジョーンズがベイシー楽団のためにスコアを用意した 記念すべき第1作。カンザス・シティ・スタイルのビートに厚みのある アンサンブルを加え、シンブルで自然なフィーリングを維持した名



WPCR-16584

STEREO

「ワン・モア・タイム ベイシー・プレイズ・クインシー

#### Basie One More Time

Tレナーとレニーのために/2ブラット・レース/ 3クインス/4ミート・BB(ベニー・ベイリー) 5ビッグ・ウォーク/6スクエア・アット・ザ・ラウ ンドテーブル/ファイ・ニーズ・トゥ・ビー・ビード・ ウィズ/8ジェシカズ・デイ/9真夜中の太陽は 沈まず/10マトニック

ファーマン (tp)、アル・グレイ、ヘンリー・コーカー、ベニー・ハウエル (tb)、フランク・ウェス (as, fl)、マーシャル・ロイヤル (as)、とリー・ミッチェル (ts)、フランク・フォスター (ts)、チャーソー・フォークス (bs)、レア・リーン (g)、エディ・ジョーンズ (b)、ソニー・ペイン (ds)、クインシー・ジョーンス (arr)

【録音】 10:1958年12月18日 ニューヨーク/ 10:1958年12月19日 ニューヨーク / 10:1958年12月20日 ニューヨーク/ 10:1959年1月24日 シカゴ

最強のメンバーを誇ったベイシー楽団が、サド・ジョーンズ、フラン ク・フォスター、フランク・ウェスら傑出したメンバーの作品を取り上 げた意欲作。おなじみの名手がドライヴする演奏を繰り広げた隠れ た名盤。



#### Chairman Of The Board

1ブルース・イン・ホス・フラット/②女王陛下 3 セグエ・イン・C/4 カンザス・シティ・シャウト / ⑤スピーキング・オブ・サウンズ/ ⑥T.V.タイ ム/ファー・ミー/8ザ・ディーコン/9ハーフ・ ムーン・ストリート/10マット・アンド・ジェフ

**□「チェアマン・オブ・ザ・ボード」** 

WPCR-16585 STEREO

カウント·ベイシー(p)、ウェンデル・カリー、スヌーキー・ヤング、サド・ジョーンズ、ジョー 

年12月11日 ニューヨーク

スタンダードな歌曲ばかりに専念したユニークな名解。数あるベイ シー楽団の「歌もの」のなかでも、甘美なサウンドを収めたアルバ ムとして人気の高い1枚。



**『ダンス・アロング・ウィズ・** ベイシー

#### **Dance Along With Basie**

1イット・ハッド・トゥ・ビー・ユー/2メイキン・ ウービー/31キャント・ウィ・ビー・フレンズ/41ミ スティ/51イッツ・ア・ビティ・トゥ・セイ・グッドナイ ト/6ハウ・アム・アイ・トゥ・ノー/ワイージー・リ ヴィング/8フールズ・ラッシュ・イン/9シーク レット・ラヴ/回ギヴ・ミー・ザ・シンブル・ライフ

WPCR-16586 STEREO

カウント・ベイシー(p)、ジョン・アンダーソン、サド・ジョーンズ、スヌーキー・ヤング、 ジョー・ニューマン(tp)、ヘンリー・コーカー、アル・グレイ、ベニー・パウエル (tb)、フラン ング・ウェス(sax、fl)、マーシャル・ロイヤル、ピリー・ミッチェル、フラング・フォスター、 チャーリー・フォークス(sax)、フレディ・グリーン(g)、エディ・ジョーンスJr. (b)、ソニー・

【録音】**■**:1959年12月16日 ニューヨーク/**日**節:1959年12月18日 ニューヨーク / 日間:1959年12月28日 ニューヨーク/**日間**回:1959年12月30日 ニューヨーク/ 昼間:1959年12月31日 ニューヨーク

ルーレット時代のベイシーをとらえた隠れた名盤。豪華なスター・ブ レイヤーを率いて、ベイシー・サウンドの粋を聴かせたビッグ・バン ド・ファン必携の1枚。



Not Now, I'll Tell You When

11アイル・テル・ユー・ホエン/2レア・バタフライ /3 バック・トゥ・ジ・アップル/4オール・マン・リ ヴァー/5ママズ・トーキン・ソフト/6ザ・ダリー・ ジャンプ/[2]ブルー・オン・ブルー/ 8 スウィンギ ング・アット・ザ・ウォルドルフ/国スウィート・アン ド・バーティー

『アイル・テル・ユー・ホエン

WPCR-16587 STEREO 日本初CD化

カウント・ペイシー(p)、ソニー・コーン、サド・ジョーンズ、スヌーキー・ヤング、ジョー・ 

【録音】 1960年6月7日 ニューヨーク/ 1915:1960年6月9日 ニューヨーク/ 1922:1960年6月16日 ニューヨーク/ 1910日:1960年6月24日 ニューヨーク

巨匠 ベニー・カーターの協力を得て、ベイシーの故郷の風景を、極 上の スコアとともに見事なオーケストレイションで再現したルー レット時代の傑作。



「カンザス・シティ組曲 ベイシー・プレイズ・カーター

Kansas City Suite: The Music Of **Benny Carter** 

11ヴァイン・ストリート・ランブル/27ケイティ・ドゥ /国ミス・ミズーリ/ほジャクソン・カウンティ・ ジュビリー/5サンセット・グロウ/6げ・ウィグ ル・ウォーク/フミーティン・タイム/ミバセオ・ブ ロムナード/ョブルー・ファイヴ・ジャイヴ/10ロ ンビン・アット・ザ・リノ

WPCR-16588 STEREO

日本初CD化

カウント・ベイシー(p)、ソニー・コーン、サド・ジョーンズ、スヌーキー・ヤング、ジョー・ ニューマン(tp)、ヘンリー・コーカー、アル・グレイ、ベニー・パウエル(tb)、マーシャル・ロイヤル(as, fl)、フランク・ウェス(as, ts, fl)、ビリー・ミッチェル(ts, cl)、フランク・フォ スター(ts)、チャーリー・フォークス(bs, b-cl, fl)、フレディ・グリーン(g)、エディ・ジョンズ(b)、ソニー・ベイン(ds)、ベニー・カーター(comp, arr)

【録音】図46月:1960年9月6日 ロサンゼルス/1135月月10:1960年9月7日 ロサ

「カンザス・シティ組曲」に続く、ベニー・カーターとのコラボ第2弾。 スウィング時代から多才な編曲家&演奏家として知られるカーター ならではの特徴あるリード・セクションにも注目したい。



BACK WITH BASIE

□ 「ザ・レジェンド ベイシー・プレイズ・カーター

Carter ザ・トロット/2イージー・マネー/3アモロ ソ/4ゴーイン・オン/5ザ・スウィズル/6ザ・ レジェンド/ファーズ・ブルー?/8ターンアバ

WPCR-16589

STEREO

日本初CD化

カウント・ベイシー (p)、アル・アーロンズ、ソニー・コーン、サド・ジョーンズ、スヌーキー・ヤング (tp)、、ヘンリー・コーカ・クロエンティン・ジャクソン、ベニー・バウェル (tb)、ベニー・カーター (as)、フランク・ウェス As)、バド・ジョンソン (ts)、フランク・フォスター (ts)、チャーリー・フォークス (bs)、サム・ハーマン (g)、エディ・ジョーンズ (b)、ソニー・

【録音】 11日日:1961年10月30日 ニューヨーク/ 11月:1961年11月1日 ニューヨーク 2 国 8 1961年11月2日 ニューヨーク

ラロ・シフリン縞曲の(ワン・ノート・サンバ)を始め、サド、フォス

くつろいだ魅力にあふれたモダンなサウンドの妙味を満喫できる。

**Back With Basie** 

「バック・ウィズ・ベイシー」

コベバーミント・バイブス/2サンクス・フォー・

ザ・ライド/ヨジ・エルダー/ヨサマー・フロスト

/5げ・タッチ・オブ・ユア・リップス/6ブルー

イッシュ・グレイ/プワン・ノート・サンバ/国ア

イ・ガット・イット・バッド・アンド・ザット・エイント・

グッド/9マット・ジャージー/10レッド・ホット・

ター、ウェスらの楽曲を中心に構成されたルーレット後期の名盤。

第2期黄金時代のメンバーのなかでも、特に才能あふれるフランク・ フォスターの作品ばかりを収録した一作。ルーレット時代の最後を 飾った人気盤としても知られる。



「イージン・イット ベイシー・プレイズ・フォスター

Easin' It (Music From The Pen Of Frank Foster)

1イージン・イット/2ブラザリー・ショーヴ/ 3ブルース・フォー・ダディ・オー/4フォー・ ファイヴ・シックス/5ミスアンダーストゥッド・ ブルース/6ママ・デヴ/ワイッツ・アバウト・ ザット・タイム

WPCR-16500 STEREO

月26日 ニューヨーク

WPCR-16591 STEREO 日本初CD化

カウント・ベイシー(p)、アル・アーロンズ、ソニー・コーン、サド・ジョーンズ、スヌーキー・ヤ ング・ファー・コーマンフィップリカルド、クラーク・デリー ((p)、ヘンリー・コーカー・アル・グレイ・クウェンティン・ジャクソン・ベニー・ソウエル ((b)、マーシャル・ロイヤル ((a)、(b))、フランク・ウェス ((a)、(b)、(b)、(a)、(b)、(b)、(b)、(b)、(c)、(c) (c) (c)

カウント・ベイシー(p)、ソニー・コーン、アル・アーロンス、サド・ジョーンズ(tp)、ヘンリー・コーカー、ベニー・パウエル、クウェンティン・ジャクソン(tb)、マーシャル・ロイヤル、フランク・ウェス、フランク・フォスター、チャーリー・フォークス (reeds)、エリック・ディクン(sax, fl)、プレディ・グリーン(g)、バディ・カトレット(b)、ソニー・ベイン(ds)、ルイ・ヘ

【録音】1960年12月15日~1962年7月26日 ニューヨーク

最強メンバーを擁した新世代のベイシー・バンドが、フランケ・フォスターの緩曲で30年代から40年代にかけての旧世代のベイシー時代の 名曲を再現した豪華2枚組。



The Count Basie Story

【録音】目:1960年12月14日 ニューヨーク/目目:1960年12月15日 ニューヨーク/ 目:1962年7月1日 ニューヨーク/目目:1962年7月25日 ニューヨーク/目:1962年7

《Disc1》[『ブロードウェイ/『『ダウン・フォー・ダブル/『Jレスター・リーブス・イン/』|トプシー/『『ジャンピング・アット・ザ・ウッドサイ ド/同タップス・ミラー/『ジョーティ・ジョージ/図ドッギン・アラウンド/図アヴェニュー・C/回ジャイヴ・アット・ファイヴ/回口ッカ・バ イ・ベイシー

WP CR-16592/3(2枚網) STERFO

日本初CD化

《Disc2》 ロスウィンギング・ザ・ブルース/2 セント・フォー・ユー・イエスタデイ/3 ティックル・トウズ/4 ブルー・アンド・センチメンタ ル/ ⑤タイム・アウト/ ⑥ 920 スペシャル/ フレッド・バンク・ブギ/ ⑧エヴリィ・タブ/ ⑨ディッキーズ・ドリーム/ ⑩テキサス・シャッフ

ル/ロアウト・ザ・ウィンドウ/12ブギ・ウギ

(Disc.1) ■・日曜 カウント・ベイシー (D)・ソニー・コーン・サド・ジョーンス、スヌーキー・ヤング・ジョー・ニューマン (tp)・ヘンリー・コーカー、アル・グレイ・ベニー・パウェル (tb)・マーシャ・ル・ロイヤル (as. ft)、アランク・ウェス (as. ts. ft)、ビリー・ミッチェル (ts. cl)、フランク・フォスター (ts. チャーリー・フォークス (bs. b-cl, ft)、フレディ・グリーン (g)、エディ・ジョーンズ (b)・ソニー・ベイン (ds)・重上記メンバーからサド・ジョーンズとフランク・フォスターが接げ、ジミー・ノッティンガム (tp)、とセルダン・パウェル (ts) が加さる(は今日) (1960年6月8日 ニューヨーグ / 1960年6月14日 ニューヨーグ | 1960年6月14日 ニューヨーグ | 1960年6月15日 ニューヨーグ | 1960年6月14日 ニューコーグ | 1960年6月14日 | 1960年6月14日 | 1960年6月14日 | 1960年6月14日 | 1960年7月14日 | 1960年6月14日 | 1960年7月14日 | 1960年6月14日 | 1960年7月14日 | 1960年7日 | 1960年7

《Disc·2】 **証-見、配**(的)カント・ペイシー(p)、ソニー・コーン、サドジョーンス、スヌーキー・セング、ジョー・ニューマン(tp)、ヘンリー・コーカー、アル・グレイ、ベニー・パウエル(tb)、ローシャル・ロイヤル(as, fl, cl)、フラング・ウェス(as, ts, fl)、ビリー・ミッチェル(ts, cl)、フラング・フォスター(ts)、チャーリー・フォークス(bs, b-cl, fl)、フレディ・グリーン(g)、エディ・ジョーンス(b)、ソニー・ペイン(ds)、ジョー・ウィリアムス(vo**回回) 回**上記メンバーからサドジョーンス(b)、ソニー・バイン(ds)、ジョー・ウィリアムス(vo**回回) 回**上記メンバーからサドジョーンス(b)、ソ

バウエル(s) が加わる 【録音】園間:1980年6月7日 ニューヨーク/園:1960年6月8日 ニューヨーク/園:1960年6月9日 ニューヨーク/園:1960年6月14日 ニューヨーク/園:1960年6月16日 ニュー ヨーク/園:1960年6月22日 ニューヨーク/園間:1960年6月23日 ニューヨーク/園間:1960年7月12日 ニューヨーク/園:1960年7月13日 ニューヨーク

全米のDJが集まったコンベンションの会場で、長時間にわたって 繰り広げられた伝説の熱演。フロリダ州マイアミのホテルで実況録 音された、リラクゼイション溢れる興奮の好ライヴ盤。



STEREO

「ベイシー・アット・マイアミ

#### **Breakfast Dance And Barbecue**

|1|イン・ア・メロウ・トーン/2|午前五時/3|カウ ンター・ブロック/4フー・ミー/5レッツ・ハヴ・ ア・テイスト/同モーテン・スウィング/ワハレ ルヤ・アイ・ラヴ・ハー・ソー/8ワン・オクロック・

カウント・ペイシー(p)、サド・ジョーンズ、ジョー・ニューマン、ウェンデル・カリー、スヌー カン・ディー・ (リア・ディー・ ) (リア・ディー・ )

【録音】1959年5月31日 フロリダ州マイアミ「ジ・アメリカーナ・ホテル」でのライヴ

ベイシー故郷に帰る。本拠地バードランドで繰り広げた迫力満点の ビッグ・バンド・サウンド。その魅力をヴィヴィッドに伝える。ジョン・ ヘンドリックスのスキャットも楽しい。



"THE JAZZ CORNER OF THE WORLD"

Basie At Birdland

ロリトル・ボニー/27ディスコモーション/3バッ クステージ・ブルース/4/ブリー・ブロップ・ブ ルース/5ワーリー・バード/6ワン・オクロック・ ジャンプ/フセグエ・イン・C/8グッド・タイム・ブ ルース/9ワン・オクロック・ジャンプ

□「ベイシー・アット・バードランド」

WPCR-16595 STEREO

ガワント・ペインー(D)、ケト・ジョーンス、ノー・・・コー・フレー・・ジョンノン、スメーキ・・ ヤング(tp)、グウエンティン・ジャクソン、ヘンリー・コーカ・、ベニー・パウエル (tb)、マー シャル・ロイヤル (as)、フランク・ウェス (ts. (fl)、フランク・フォスター、バッド・ジョンソン (ts)、チャーリー・フォークス(bs)、フレディ・グリーン(g)、エディ・ジョーンズ(b)、ソ ニー・ペイン(ds)、ジョン・ヘンドリックス(vo a)

【録音】1961年6月27、28日 ニューヨーク「バードランド」でのライヴ

ドラマーにルイ・ベルソンが参加、現地のベニー・ベイリーとオキ・ベ ルソンも加わった北欧での好ライヴ。リズムもさらに洗練されての 熟演。



#### Basie In Sweden

エリトル・ボニー/2プリマス・ロック/31パック ウォーター・ブルース/4フー・ミー/5/バリの 四月/同バックステージ・ブルース/アグッド・タ イム・ブルース/8ピース・バイブ

WPCR-16596 STEREO 日本初CD化

【録音】■:1962年8月10日 ストックホルム「クローナ・ルンド」でのライヴ/図図:1962年8月11日 ストックホルム「クローナ・ルンド」でのライヴ/■■:1962年8月12日 ストックホルム「グローナ・ルンド」でのライヴ/■:1962年8月13日 ストックホルム「グ ローナ・ルンド」でのライヴ

50年代のベイシー・バンドで活躍したテナー奏者を紹介するた め御大自ら全面協力で参加した珍しいコンボ作品。バンドの盟友 ニューマンもゲストで華を添える。



WPCR-16597

MONO 日本初CD化 **「カウント・ベイシー・ブレゼンツ** エディ・ロックジョウ・デイヴィス &ジョー・ニューマン

Count Basie Presents Eddie Davis Trio + Joe Newman

田ブロードウェイ/②ドント・ブレイム・ミー ③マリー/4ア・ミスティ・ワン/5セイヴ・ユ ア・ラヴ・フォー・ミー/⑥テレグラフ/⑦ファー ルーク/8ロック・アップ/ョストリート・オブ・ ドリームス/100スウィンギン・ティル・ザ・ガール ズ・カム・ホーム

カウント・ベイシー(p)、エディ<sup>\*</sup>ロックジョウ<sup>\*</sup> デイヴィス(ts間・日間)、シャーリー・スコット(org)、ジョー・ニューマン(tp間・日間・日間)、ジョージ・デュヴィヴィエ(b)、ブッチ・バラード(ds)

【録音】1957年12月17~19日 ニューヨーク

普段のビッグ・バンドを離れた、リズム・セクションのみで挑んだユ ニークな名盤。甘美なストリングスをバックに繰り広げたイージー・ リスニング・サウンド。



□「ストリング・アロング・ウィズ・ ベイシー

#### String Along With Basie

TIサマータイム/IZ ソング・オブ・ジ・アイラン ズ/国ストリンギング・ザ・ブルース/国ジ・ワ ン・アイ・ラヴ/5ブルー・アンド・センチメンタ ル/6ブルース・ビタースウィート/フプア・バ タフライ/8ジーズ・フーリッシュ・シングス/ 9)シーズ・ファニー・ザット・ウェイ/10)スウィー ト・ロレイン

WPCR-16598 STEREO 日本初CD化

■日回:カウント・ペイシー(p)、アル・グレイ、ヘンリー・コーカー、ベニー・バウエル(tb)、ベン・ウェブスター(ts)、フレディ・グリーン(g)、ジョージ・テュヴィヴィエ(b)、ジミー・グロード(ds)、ストリングス、クインシー・ジョーンス(arr)

ノオード(ISS)、Aドリング人、クインシー・ソヨージ人(arr) 【録音】1989年7月20日 ニューヨーク 田日岡 カウント・イイシー(p)、イリノイ・ジャケー(ts)、フランク・ウェス、ハービー・マン (fl)、アンティ・フィッツジェラルド(fl, b-cl)、フレディ・グリーン(g)、ジョージ・デュヴィ ヴィエ(b)、ジミー・クロフォード(ds)、ストリングス、ジョージ・ヴィリアムス(arr) 【録音】1960年5月10日 ニューヨーク 即2月1日、上記メンバー(ED団)と同じ 【録音】1980年5月11日 ニューヨーク

オールド時代の花型ソロイストが残した歴史的なソロに詞をつけ、楽 しいハーモニーに昇華させた混声グループとの共演。専属歌手だっ たジョー・ウィリアムスも4曲で加わったジャズ・ヴォーカル大名盤。



WPCR-16599 STEREO

**ジング・アロング・ウィズ・** ベイシー

Sing Along With Basie

①ジャンピン・アット・ザ・ウッドサイド/2/ゴー イング・トゥ・シカゴ・ブルース/3ティックル・ トー/4レット・ミー・シー/5エヴリー・タブ/ ⑥ショーティ·ジョージ/ワラスティ·ダスティ・ ブルース/8ザ・キング/9スインギン・ザ・ブ ルース/10リル・ダーリン

カウント・ベイシー(p)、サド・ジョーンズ、ジョー・ニューマン、スヌーキー・ヤング、ウェン イヴ・ランバート、アニー・ロス(vo)、ジョー・ウィリアムス(vo2579)

【録音】 図8:1958年5月26日 ニューヨーク/ 西野田田:1958年5月27日 ニューヨーク/ 西野田田:1958年9月3日 ニューヨーク

いぶし銀の勢力を湛えるウィリアムスの快喝と、御大ベイシーのリ ラックスしたバッキングが冴える名盤。ベイシー楽団の専属歌手と しても知られたウィリアムスが、ベイシー・コンボをバックにじっくり と歌った 滋味溢れる1枚。



WPCR-16600

日本初CD化

STEREO

□ベイシー&ジョー・ウィリアムス 「メモリーズ・アドリブ」

Count Basie/Joe Williams / Memories Ad-Lib

17 浮気はやめた/27 アイル・オールウェイズ・ ピー・イン・ラヴ・ウィズ・ユー/国スウィート・ スー、ジャスト・ユー/4イフ・アイ・クッド・ビー ウィズ・ユー/ 5ダイナ/ 6サムタイムズ・ア イム・ハッピー/アベイビー、ウォント・ユー・プ リーズ・カム・ホーム/風コール・ミー・ダーリン / 9 ザ・ワン・アイ・ラヴ・ビロングス・トゥ・サムバ ディ・エルス/阿メモリーズ・オブ・ユー/阿ハ ニーサックル・ローズ/図オール・オブ・ミー

【録音】115回回:1958年10月13日 ニューヨーク/四日77回回:1958年10月14日 ニューヨーク/四日:1958年12月29日 ニューヨーク

バップ・バンドのリーダーとしても活躍したエクスタインは官能的な ヴォイスで当時多くの女性を触了した人気歌手。ここではお得意の ブルースとバラードをたっぷり披露。歌も伴奏も迫力満点、これぞー 流のエンターテイメント。



WPCR-1660 STEREO 日本初CD化 □ベイシー&ビリー・エクスタイン 「ベイシー&エクスタイン・ インコーポレイテッド

Count Basie/Billy Eckstine / Basie/Eckstine Incorporated

コストーミー・マンデイ・ブルース/20ロンサム・ ラヴァー・ブルース/3ブルース、ザ・マザー・オ ブ・シン/国ジェリー・ジェリー/5ドント・クラ イ・ベイビー/ 6トラヴリン・オール・アローン/ フリトル・ママ/8アイ・ウォント・ア・リトル・ガー ル/ョドリフティング/10放浪者の歌/IIIビア 1.77

カウント・ベイシー(p**日日日**)、ビリー・エクスタイン(vo)、ウェンデル・カリー、サド・ジョーンズ、スヌーキー・ヤング・ジョー・ニューマン(tp)、ヘンリー・コーカー、アル・ヴレイ、ベニー・バウエル(tb)、マーシャル・ロイヤル(as、cl)、フランク・ウェス(as、fl)、フランク・ウェス(bs)、ボビー・タッカーンク・フォスター、ビリー・ミッチェル(ts)、チャーリー・フォークス(bs)、ボビー・タッカー (p回 2日 4 6 8 9 9 9 mm)、フレディ・グリーン(g)、エディ・ジョーンズ(b)、ジョージ・デュヴィヴィエ(b 2 4 )、ソニー・ペイン(ds)

【録音】1959年5月22日、23日 ニューヨーク

カウント・ベイシー楽団の専属歌手としても人気を博したご存じ ジョー・ウィリアムスの代表作。彼が放った大ヒット曲「エヴリデイ (アイ・ハヴ・ザ・ブルース)」を収録したジャズ・ヴォーカル名盤。



WPCR-16602 STEREO

日本初CD化

マイシー&ジョー・ウィリアムス 「エヴリデイ・アイ・ハヴ・ザ・

Count Basie/Joe Williams / Everyday I Have The Blues

1 エヴリデイ(アイ・ハヴ・ザ・ブルース) / 2 家に帰 らないか/3ゴーイング・トゥ・シカゴ・ブルース/ 4 ジー・ベイビー (エイント・アイ・グッド・トゥ・ユー) / 5 ジョー・シングス・ザ・ブルース (イッツ・ア ロー・ダウン・ダーティ・シェイム) / ⑥シェイク、ラト ル&ロール/フジャスト・ア・ドリーム/8/チェリー・ レッド/9グッド・モーニン・ブルース/10ホワット・ ディド・ユー・ウィン/111エイント・ノー・ユース

カウント・ペイシー(p)、ジョン・アンダーソン、サド・ジョーンズ、スヌーキー・ヤング、  $\begin{array}{lll} \mathcal{Y}_{23} & - (1) & -$ 

【録音】 1959年9月24日、25日 シカゴ/ 1910:1957年9月19日 ニューヨーク

得意のブルースを中心に、フランク・フォスターが編曲を手がけた エヴリデイ・アイ・ハヴ・ザ・ブルース の続編。第2期黄金時代を 彩った極上のビッグ・バンドをバックに、ウィリアムスが渋い男の態 力を歌い上げる。



WPCR-16603 STEREO 日本初CD化 □ベイシー&ジョー・ウィリアムス 「ジャスト・ザ・ブルース」

Count Basie/Joe Williams / **Just The Blues** 

ココンフェッシン・ザ・ブルース / フミーン・オー ルド・ワールド/3トラヴリン・ライト/41キー・ トゥ・ザ・ハイウェイ/⑤ライイン・ウーマン/ ⑥チェインズ・オブ・ラヴ/フミーン・ミストリー ター/ョキーブ・ユア・ハンド・オン・ユア・ハート / 9ナイト・タイム・イズ・ザ・ライト・タイム(ホエ ン・ザ・サン・ゴーズ・ダウン) / 回トゥモロウ・ナ

カウント・ベイシー (p. org 型)・ジョー・ウィリアムス (vo)・ソニー・コーン・サド・ジョーンス、スヌーキー・ヤング・ジョー・ニューマン (tp)・ヘンリー・コーカー、アル・グレイ・ベニー・バウエル (tb)、マーン+ル・ロイヤル (as. fl)、ブランク・ウェス (as. ts. fl)、ビリー・ビディグリーン (g)・エディンター (ts)・デャーリー・フィータス (bs. b-cl. fl)、フレディグリーン (g)・エディジョーンズ (b)・ソニー・ベイン (d=)

【録音】12日:1960年8月24日 シカゴ/日日:1960年8月25日 シカゴ/日日:1960年8月26日 シカゴ/日日:1960年8月27日 シカゴ

黄金時代のベイシー・バンドをバックに、しなやかに、かつ大きなス ケールでスウィングするサラ。名曲「コーナー・ポケット」の旋律に 歌詞をつけた「アンティル・アイ・メット・ユー」も楽しい。



WPCR-16604

STEREO

サラ・ヴォーン Count Basie & Sarah Vaughan

プロウント・ベイシー&

11パーディド/21ラヴァー・マン/31アイ・クラ イド・フォー・ユー/国アローン/同ゼア・アー・ サッチ・シングス/6ミーン・トゥ・ミー/77ザ・ ジェントルマン・イズ・ア・ドープ/81ユー・ゴー・ トゥ・マイ・ヘッド/国アンティル・アイ・メット・ ユー/10ユー・ターンド・ザ・テーブルズ・オン・ ミー/回リトル・マン (ユーヴ・ハッド・ア・ビジー

カウント・ベイシー(p)、サラ・ヴォーン(vo)、サド・ジョーンズ(tp. arr)、ソニー・コーン、 ススーキー・ヤング・ジョー・ニューマン ( $t_D$ )、ヘンリー・コーカー、ペニー・ハウエル、ア ル・グレイ ( $t_D$ )、マーシャル・ロイヤル (as.  $c_D$ )、フランク・フォス ター・ビリー・ミッチェル ( $t_S$ )、チャーリー・フォークス (bs)、カーク・スチュワート (b)、フレ ディ・グリーン(g)、エディ・ジョーンズ(b)、ソニー・ペイン(ds)

【録音】 10 15 13 10 11 19 16 1年 1月 13日 ニューヨーク/2015 17 18 10:19 61年 1月 10~

コロンビア盤。イン・パーソンと対をなす、最高の男性ジャズ・シン ガーと至高のビッグ・バンドによる夢の競演。ギターとチェレステを 中心にしたコンボをバックに歌った「グロウイング・ペインズ」の味 わいも最高。



WPCR-16605 STEREO

「カウント・ベイシー&

トニー・ベネット

Count Basie Swings / Tony Bennett Sings

①ライフ・イズ・ア・ソング/②ブレンティ・オブ・ マネー/3ジーバーズ・クリーバーズ/4アー・ ユー・ハヴィン・エニー・ファン/5エニシング・ ゴーズ/6ストライク・アップ・ザ・バンド/77シ カゴ/8あの娘の顔に馴れてきた/9プア・リト ル・リッチ・ガール/10グロウイング・ペインズ/ 11プランを変えて

カウント・ベイシー(p▋█)、トニー・ベネット(vo)、サド・ジョーンズ、ウェンデル・カリー ススーキー・ヤング・ジョー・ニューマン(tp)、ヘンリー・コーカー、ベニー・バウェル、アルグレイ(tp)、マーシャル・ロイヤル(as, cl)、フランク・フェス(as, ts, fl)、ビリー・ミッチェル、フラング・フォスター(ts)、チャーリー・フォークス(bs)、ラルフ・シャロン(p**日日・**田 celestem)、フレディ・グリーン(g)、エディ・ジョーンズ(b)、ソニー・ペイン(ds)

【録音】1959年1月3日、5日 ニューヨーク

#### 黄金時代のベイシー・バンドを筆頭に、チャーリー・バーカー、レスター・ヤング、ビリー・ホリデイ、サラ・ヴォーンという当時のスターが一堂 に集まった伝説のライヴ。



WPCR-16606/7(2枚組) MONO □カウント・ベイシー、サラ・ヴォーン、チャーリー・バーカー、ビリー・ホリデイ 『**カーネギー・ホールのバードランド・オールスターズ**』

Count Basie, Sarah Vaughan, Charlie Parker, Billie Holiday / Echoes Of An Era The Birdland All-Stars Live At Carnegie Hall

(Disc1) 『パードランドの子守嗅/②ユー・フォー・ミー/③ブルース・パックステージ/4パーディド/⑤ザ・ソング・イズ・ユー/ ⑥マイ・ファニー・ヴァレンタイン/②クール・ブルース/⑥ザ・ティーンエイジャー/⑤トゥ・フランクス/⑩オール・オブ・ミー/⑪エイント・ノーバディズ・ビジネス・イフ・アイ・ドゥ/⑩ラヴァー・カム・パック・トゥ・ミー/⑪マイ・マン/⑪ゼム・ゼア・アイズ/⑩ラヴァー・マン

《Disc2》 ①シュア・シング / ②ベニーズ・フロム・ヘヴン / ③ジャンピン・アット・ザ・ウッドサイド / ④パーティド / ⑤ボルカ・ドッツ&ムーンピームス / ⑥メドレー:アイ・エイント・マッド〜サマータイム / ①サタデイ / ⑥タイム / ⑨オールド・デヴィル・ムーン / ⑩テンダ リー / ⑪ドント・プレイム・ミー / ⑩フィナーレ

(Disc 1): **日・日・日・日・** (Disc 2): **日・日の** カウント・ペイシー・オーケストラ:カウント・ペイシー (p)、ウェンテル・カリー、レナルド・ジョーンズ、サド・ジョーンズ、ジョー・ニューマン (tp)、ヘンリー・コーカー、ビル・ヒューズ、ベニー・ ドウェル (tb)、マーシャル・ロイヤル (as, cl)、アーニー・ウィルキンス (as, ts)、フランク・ウェス (ts, fl)、フランク・フォスター (ts)、チャーリー・フォークス (bs)、フレディ・グリーン (g)、エディ・ジョーンズ (b)、ガス・ジョンソン (ds)、ダン・テリー (tp/Disc 1・**日**)、レスター・ヤング (ts/Disc 2・**日日**)、ビリー・ホリデイ (vo/Disc 1・**日日 日日日**日)

チャーリー・バーカー・カルテット:チャーリー・バーカー (as)、ジョン・ルイス (p)、パーシー・ヒース (b)、ケニー・クラーク (ds) (Disc: 1):國-関

とリー・ポリテイ(vo)、カール・ドリンカード(p)、カウント・ベイシー・オーケストラ(ベイシー(p)抜ける) (Disc 2):D-K:サラ・ヴォーン(vo)、ジミー・ジョーンズ(p)、ジョー・ベンジャミン(b)、ロイ・ヘインズ(ds)、ベイシー・リード&ブラス・セクション

【録音】 1954年9月25日 ニューヨーク 「カーネギー・ホール」 でのライヴ

### カウント・ベイシー・バイオグラフィー

Count Basie (pf, comp) 1904~1984

デューク・エリントン、ルイ・アームストロングらと並んで、誰もが知っているジャズ史に燦然と輝く巨人。バンドリーダー&ピアニスト。1904年8月21日ニュージャージー州レッドバンクの生まれ。ミズーリ州カンザスシティで多くのジャズメンと知り合い、1936年末、ニューヨークに進出し、デッカへの録音を始めた。

1930年代末から40年代にかけてのベイシー・バンドには、フレディ・グリーン(g)、ウォルター・ベイジ(b)、ジョー・ジョーンズ(ds)をはじめ、レスター・ヤング(ts)、バック・クレイトン(tp)、"スウィーツ" エディソン(tp) といった唯一無二の個性を誇るソロイストが多数揃っていた。彼らは譜面を使わず、事前の簡単な口約束程度のヘッド・アレンジによる演奏で、最初の黄金時代を築く。

その後、戦後の不 況下に入り、ベイシー は一時バンドを解散す るが、50年代に入っ てから復活させる。 オールド・ベイシー時 代からの盟友フレディ・ グリーン(g)をはじ め、ジョー・ニューマン (tp)、サド・ジョーンズ (tp)、フランク・フォ スター(ts)、フランク・ ウェス(as. ts. fl)と いったモダン世代の優 れた演奏家、新進気鋭 の編曲家も起用し、第 二期の黄金時代を築 いた。30年代末から

40年代にかけての黄



▲ ジョー・ジョーンズ、ウォルター・ベイジ&カウント・ベイシー

金時代をオールド・ベイシーと呼ぶのに対し、この50年代から60年代にかけての黄金時代をニュー・ベイシーと呼ぶ。この頃のベイシー・オーケストラの人気は絶頂で、世界各地を演奏旅行で訪問するという、多忙な日々を送っていた。



◀ フランケ・ウェス、マーシャル・ローヤル、ベイシー、フレディ・グリーン、サド・ショーンズ、フランケ・フォスター

ニュー・ベイシーの時代のなかで、もっとも充実していたのは1957年から1962年にかけてのルーレット時代である。ルーレット・レコードの創設者のひとり、モーリス・レヴィーがジャズ・クラブ「バードランド」の経営者であり、ベイシーは不遇時代に「バードランド」に出演させてもらっていたことを恩義に感じていたと言われる。

ベイシーがルーレットと契約した期間は、1957年から1962年までの5年間。この間、ベイシーは絶大な信頼を寄せていたプロデューサー、テディ・リーグと組み、さまざまな企画で、短期間のうちに多くの名演・名盤を残すことに成功する。

ニール・ヘフティと組んだ「アトミック・ベイシー」と「キュート」をはじめ、クインシー・ジョーンズと組んだ「ワン・モア・タイム」ベニー・カーターの編曲を取り上げた「カンザス・シティ組曲」や「ザ・レジェンド」をはじめ、メンバーでもあるフランク・フォスターの作品ばかりを取り上げた「イージン・イット」など、ビッグ・バンド・ファンの間ではどれも人気の高い作品ばかりである。



▲ レスター・ヤング&カウント・ベイシー

この他、人気歌手と組んだ共演作もたくさん残した。混声コーラス・グループ (ランバート、ヘンドリックス&ロス) との共演で知られる『シング・アロング・ウィズ・ベイシー』、サラ・ヴォーン、トニー・ベネット、ビリー・エクスタインとの共演作。パンドの専属歌手だったジョー・ウィリアムスをフィーチャーした『エヴリデイ・アイ・ハヴ・ザ・ブルース』や『メモリーズ・アドリブ』、『ジャスト・ザ・ブルース』と、いずれもブルースに根ざしたベイシー・サウンドとの共演が捉えられている。

カウント・ベイシーは1984年4月26日に79歳で死去したが、その後もリーダーを変えてベイシー・バンドは継続中だ。ルーレット時代のベイシー作品は、かつてレコードで復刻されたことはあったが、一挙にCD化されるのは今回が初めて。およそ約30年ぶり、オリジナル・フォームでの復刻となる。



▲ 来日時のカウント・ペイシー Photo:Shoji "Swifty" Sugawara

## ルーレット・レーベルについて

ルーレットは1956年にジョージ・ゴールドナー、 ジョー・コルスキー、モーリス・レヴィー、フィル・カー ルの4人によって設立された独立系レーベル。設立当 初から当時流行のツイスト、ロックンロール、R&Bと いったダンス・ミュージックのヒットを数多く放った。

創設者のひとり、モーリス・レヴィーが名門ジャズ・クラブ『バードランド』の経営者だったこともあり、『バードランド』の常連だったカウント・ベイシーを筆頭に、当時の新人を集めたライヴ録音や、人気ドラマー4人の共演盤などが残されている。

今回、一挙に復刻されるカウント・ベイシー以外の ビッグ・バンドとしては、メイナード・ファーガソン名義 のアルバムが残されている。その他ではハーブ・ポメ ロイやルイ・ベルソン、ジョニー・リチャーズらの作品 も、かつて日本盤で復刻されたことがある。

トラッド系ジャズではトロンボーン奏者、ジャック・ティーガーデンの作品がある。女性歌手ではサラ・ヴォーンやダイナ・ワシントンを筆頭に、男性歌手ではビリー・エクスタインやジョー・ウィリアムスといった実力派揃いで、内容もバラエティに富んでいる。

ルーレットは独立系レーベルとして1970年代末まで活動した。その後1989年になってEMIへ売却されたが、2012年にユニバーサルがEMIを買収。欧州委員会が資産の一部の売却を命じたため、2013年2月にワーナーミュージック・グループの傘下となった。



# 本シリーズで使用された貴重なオリジナル・マスター収納ケースの一部を公開!!





「アトミック・ペイシー」のステレオ・マスター



「ベイシー・アット・バードランド」のステレオ・マスター



『ベイシー&エクスタイン・インコーボレイテッド』のステレオ・マスター



『キュート ベイシー・ブレイズ・ヘフティ』のステレオ・マスター



「ストリング・アロング・ウィズ・ベイシー」のステレオ・マスター



「カウント・ベイシー&サラ・ヴォーン」のステレオ・マスター

















